

科目	心理的アセスメント I A	単位数	1
担当教員	津田 恭充、松本 敦		
履修対象	心理科学科 3 年春学期		
概要と目的	心理アセスメントの中で質問紙法に焦点を当て、臨床の場面で用いられる技法を体験しながら修得する。		
達成目標	「知識・技能」 (1) さまざまなアセスメントの目的、内容、実施法、解釈法を総合的に理解する。 (2) さまざまなアセスメントの具体的な実施手順と解釈法を修得する。 「思考力・判断力・表現力」 (1) さまざまなアセスメントを体験することを通じて、検査者の役割や姿勢について考える。 (2) アセスメントの個別の結果について解釈し、所見を書くことができる。 「主体性・多様性・協働性」 (1) アセスメントに積極的に取り組む姿勢を示す。 (2) アセスメント実施に伴う倫理的責任について注意を払う。		
授業計画			
1	オリエンテーション、心理アセスメントの目的と種類（松本）		
2	守秘義務、インフォームドコンセント、結果のフィードバック等の倫理（松本）		
3	ラポールの形成、インテーク面接、アセスメントの手順（松本）		
4	心理アセスメントにおける生物・心理・社会モデル（松本）		
5	性格検査：YG 性格検査（矢田部ギルフォード性格検査）の概要（松本）		
6	性格検査：YG 性格検査（矢田部ギルフォード性格検査）の実施と解釈（松本）		
7	性格検査：NEO-FFI の実施と解釈（松本）		
8	性格検査：潜在連合テスト（津田）		
9	性格検査：エゴグラムと新版 TEG3 の概要（津田）		
10	性格検査：エゴグラムと新版 TEG3 の実施と解釈（津田）		
11	精神的健康の調査：CMI、STAI、BDI-II の実施（津田）		
12	作業検査：内田・クレペリン検査の実施（津田）		
13	作業検査：内田・クレペリン検査の解釈（津田）		
14	事例紹介：臨床場面における心理アセスメントの実際（津田）		
15	まとめと授業内試験（松本・津田）		
授業形態／具体的な内容	演習／演習、講義		
教科書			
教科書名	著者名	出版社	金額
教科書は使用しない。購入してもらう心理検査を使用する。			
参考書			
成績評価の基準・方法	基準：授業で習った心理アセスメントの理論と方法を理解できていれば合格とする。 方法：授業内試験と授業内での課題の総合点によって評価する。		
留意点	体験型の授業であるため、心理検査用紙がないと授業を進めることができない。授業で使用する心理検査用紙を大学の指示にしたがって購入し、毎回持参すること。また、授業中に配布したプリントを整理して管理し、毎回持参すること。		
準備学習	授業で扱う心理アセスメントと、（授業では扱わないがそれに関連する）心理アセスメントの概要をノートにまとめておくこと（1.5 時間）		
備考	授業内の課題に対して、その授業内か次回の授業にフィードバックする。 その他、実務経験に基づく事例等も紹介しながら授業を進める。	No.	PY622004